

書名：アクティブ・ラーニ
ング実践の手引き

著者：田中博之

出版社：教育開発研究所

出版年月：2016年4月

総ページ数：207ページ

ISBN：9784873806990



推薦者

皆川直凡

鳴門教育大学大学院教授

人間形成コース

本書は、近年、各方面で話題となっている「アクティブ・ラーニング」とは何かを中央教育審議会答申の趣旨に沿ってわかりやすく解説したうえで、授業の構成方法や具体的な指導法、その基盤となる学級経営のあり方、学習評価の方法、および家庭学習の指導法などについて、実践例を交えながら紹介しています。さらに、授業力の向上を目的とする「授業評価チェックリスト」、さまざまな角度から学習を評価するための「ループリック」の例、学習者の主体性を高めることを目指す「自己評価シート」など、教育実践に役立つと思われる資料も満載しています。本書を読み、自らの教育研究の方向性との共通項を見だし、深い感銘を受けたことから、本書を推薦します。以下に、その理由を書きます。

私は、昨年度に刊行した論文（『教育心理学年報』54巻に掲載）において、自ら考え、対話しながら、新たな解を生み出し、学習場面を離れても利用できることを目指す「21世紀の新しい学び」について考察し、学習者の内発的動機づけや学習のプロセスを重視し、自分とは異なる意見にも耳を傾けることを促し、他の場面への学習の転移や発展にも目配りするといった教育研究の重要性を指摘しました。こうした学びの実現に寄与し、学習者の自立と協同を促進する方法として、アクティブ・ラーニングが考えられ、本書はその優れた手引き書であると考えられます。教職を目指す人たちにはもちろんのこと、自己啓発を図りたい人にも、一読をお勧めします。

